談話室

作家
川端　裕人　さん

profile

1964年兵庫県明石市生まれ。千葉県千葉市育ち。東京大学教養学部で科学史・科学哲学を学ぶ。日本テレビ放送網の報道記者などを経て，作家として独立。著書に「エピデミック」（角川書店），「桜川ピクニック」（文藝春秋）などがある。

一応「理系」とはいえ，数学は得意ではなかった。しかし，我が人生において，わずか３日くらいの期間，ひょっとすると自分って数学の天才なんじゃないかと感じたことがある。

大学教養課程の解析学のテストを間近に控えたある夜のこと。いきなり目の前がさーっと晴れ渡った。テキストの演習問題は，たちどころに問いの本質に即した解法と回答を選ぶことができた。試験範囲ではなかったイプシロンデルタ論法の頁を戯れに読みながら，綱渡りのような，しかし，よく練り込まれた論の運びを「鑑賞」する余裕もあった。当然（？）テストは満点だった。これまで想像もしなかった，数学の広がりの地図が，解析学初級編の向こう側から顔を出し，その景色の鮮やかさに実に爽快な気分になった。

ただし，残念ながら，その時見たものを描写することはできない。試験の翌日には，明澄な感覚はすべて飛び散って，ぼくはまた数学について，まったく凡庸なダメ大学生に戻った。半年後の解析学の試験では見事に赤点ラインだったっけ。

ともあれ，３日間だけ「天才」だった経験は貴重だ。今でも，あの時の陶酔感を思い出すことができるし，その体験のせいで，ひたすら数学者がうらやましい。もちろん，難問と格闘して疲労困憊するところまではいかなかったので，「苦労」を知らないまま憧れているわけなのだが。

「苦労知らずの憧れ」というのは意外に強靭なものだ。物書きになってからも，数学隣接分野に惹かれてやまない。『リスクテイカー』という作品では，確率微分方程式が飛び交う先端金融マーケットの話を書いた（ひーひー言いながら）。『ザ・スープ』ではできるだけリアルなハッカーを登場させたし，最近上梓したばかりの『エピデミック』では疫学（統計学を重要なツールとした医療の場での因果推論の方法）そのものを主題にした。いずれも，非専門家の物書きとしてはかなり専門性の高いところまで追い込んだ。辛いながらも楽しい作業だから，やめられない。

けれど，食い足りないのも事実。かつて感じた数学の至福には程遠く，もやもやした気分が残る。

だから，決めた。いくら，ひーひー言うことになったとしても，数学を中心に据えた小説を書いてやろうじゃないか。

テーマは素数と宇宙。

どうも，素数と小説の親和性は高い。小川洋子の『博士が愛した数式』を引くまでもなく，前例はあちこちにありそうだ。そこに切り込むのだから，できるだけ大きな問題を扱いたい。

具体的にいうならリーマン予想。こいつをドンと物語のまん中に置いて，舞台は現代日本。主人公たちは小学６年生くらいか。和算が出てきて，算数オリンピックがでてきて，宇宙人まで出てくるかもしれない，ＳＦ風味の少年少女数学小説。

なんで，そんな滅茶苦茶な設定なのだと怒られそうだが，それがいいと思ってしまった以上，仕方ない。勢いで書いてしまうまでだ。

とはいえ……鼻息荒く宣言しても，ひーひー，であることは間違いなく……。

目下，サイモン・シン以降，やたら充実している数学関連の一般書を片っ端から読み，知的興奮におぼれそうになりつつ，常に不安と隣り合わせでもある。まあどうにかなるさ，と楽観論を振りかざせるうちに（これまで大抵どうにかなった），ブレインになったり「査読」をしてやろうって方，いません？　と，この場を借りて，こっそり募集……。

通巻第56号
2008年 2月 15日 印刷
2008年 2月 20日 発行
©編修・発行　実教出版株式会社
代表者　島根正幸
定　価　210円（本体200円）
発行所　〒102-8377　東京都千代田区五番町５
TEL. 03-3238-7777
http://www.jikkyo.co.jp/